

瑞穂町子ども計画素案に対する意見の概要と町の考え方

資料 1

※「概要」については、原文を要約して掲載しています。

No.	頁	概要	町の考え方
1	表紙	表紙に親子の「みずほまる」をぜひとも入れてほしい。	親子ではありませんが、みずほまるを表紙に掲載します。
2	目次	瑞穂町の子ども計画は、何がしたいのか、よくわかりにくい。	こども基本法及びこども大綱に基づき、全ての子ども・若者が自立した個人として等しく健やかに成長でき、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態で生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現を目指すことを目的とした計画となります。
3	目次	【第4章の施策の展開の部分】 悪いものは捨て、良いものを見習うべき 青梅市の書き方を具体例として、瑞穂町の計画書にも取り入れるべき。具体的には、青梅市の「こども・子育て支援施策の具体的な展開」を参考にしてほしい。	第4章については他自治体の事例も参考にしていますが、次期計画策定に向け、近隣自治体の事例も参考にさせていただきます。
4	P9	データの取り扱いについて、変わらないデータやグラフは主だった部分だけに絞るべきである。データを多く入れがちだが、見やすさを重視した方が良い。	施策を検討するために必要な現況データと考えているため、このままの記載とさせていただきます。
5	P11	○データの年度の整合性…各データの年度（H30からR06、H22からR02、H12からR02）が異なるため、比較がしづらい。年度を統一することで、見やすくなるのでは。 ○グラフの見やすさ…グラフが縦横で見にくく、比較がしにくい。 ○データの意義と計画への反映…データの増減だけが記載されているが、それに基づいて「どうするのか」が明示されていないため、数値が計画にどのように反映されるのかを示す必要がある。具体的な意図が示されていないと、小学生の夏休みの宿題のように見えてしまうのでは。	○比較できる年度のデータを記載します。 ○グラフは、データ分量により見やすさを重視し概ね縦横を決めています。全て統一することで、より分かりづらくなるため、このままの記載とさせていただきます。 ○現況データをもとに各取組を検討しています。
6	P12	（1）出生数の推移について ○「令和3年に一度増加した後、令和4年から再び減少している」という説明は必要なのだろうか。 ○グラフの期間がなぜ9年間に設定されているのか。H26の数値がおかしいからなのだろうか。 ○H28のデータと比較して何割減ったかを示すだけでいいのでは。	○グラフを見ただけでは見落としてしまう部分については、グラフだけではなく文書でも説明をしています。 ○子ども・子育て支援事業計画が平成27年度からスタートしたため、出生率の推移については平成27年度から掲載しています。 ○年度により増減があるため、このままの記載とさせていただきます。
7	P12	（2）出生率（人口千対比）の都比較 ○現在の表が町を貶めているかのように見える。 ○高齢化が進む「郡部」や「島しょ」もデータに含めるべき。	○現況を表したデータとなっています。 ○「郡部」のデータを反映します。
8	P13	○「令和3年に一度1.09まで増加した後、令和4年から再び減少しており…」という説明は必要なのだろうか。 ○記載するなら増加の理由も入れた方がいい。	○グラフを見ただけでは見落としてしまう部分については、グラフだけではなく文書でも説明をしています。 ○増加の理由として要因を特定することは困難であることから、推移の事実のみを記載しています。

No.	頁	概要	町の考え方
9	P13	青梅市の計画では、「合計特殊出生率」の説明も入っているが、町でも入れたらどうか。	「合計特殊出生率」の説明を記載します。
10	P39	【基本理念について】 ○「子どもや若者、子育て世帯が幸せになれるまち みずほ」と記載されているが、「幸せ」の感じ方は個人によって異なるのでは。 ○より適切な表現として、「幸せを感じられるまち みずほ」が良いのでは。 ○幸せの定義は人それぞれ異なるため、具体的な感じ方に配慮した表現が必要。	「幸せを感じられるまち みずほ」としてご意見いただきましたが、感じ方は、ご意見のとおりで、それぞれ異なります。町としては、子どもや若者一人ひとりが大切にされ、身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができるよう「子どもや若者、子育て世帯が幸せになれるまち みずほ」を基本理念とさせていただきます。
11	P40	基本目標1「子ども・若者のための地域づくり」のページの内容は目標に見合っているように見えるが、P42以降の施策体系を見ると、内容が目標からずれているように感じる。	P40の基本目標1の文章では「学校教育環境の整備」、「居場所づくり」、「子ども・若者が権利の主体」である旨を記載しています。 P42の施策体系においても「学校教育環境の整備」や「子ども・若者居場所づくり」、「子ども・若者の意見表明と参画機会の促進」など、整合性に留意したの取組を位置付けています。
12	P52	②学校教育の充実 「みずほ学への取組み」などは入れないのだろうか。 学校の現場では、先生方が頑張っているそうである。 また、故郷への愛着をもってもらおうということも大切なのかと。	P52の②学校教育の充実の施策No2の冒頭に、『ふるさと学習「みずほ学」を通じて、』という一文を追加します。
13	P52	No.3「不登校児童・生徒への支援」という施策があるため数値として出しておくことが良いのでは。	不登校児童・生徒数の出現率等は注視しますが、本計画への数値の掲載は考えていません。
14	P79	【第5章 量の見込みと確保方策】 ○この計画は「こども計画」であるにもかかわらず、第5章の表題がすべて「内部資料」的な表現になっている。 ○国の計画策定の「見本」がそうになっている可能性も考慮しつつ、表題を見直す必要がある。 ○例として、「第2期瑞穂町子ども・子育て支援事業計画」の「第6章」のような表記が良いのでは。 ・前提条件の整理 ・教育・保育の量の見込みと確保方策 ・地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策 ・放課後児童対策の推進に向けた目標量の設定 ・子ども・子育て支援給付に係る教育・保育の一体的な提供及び当該教育・保育の推進 ↑これらの項目名が長すぎる。子ども計画で使う言葉に適しているのだろうか。まだ、青梅市の方が見やすいため、参考にするべき。	第5章「量の見込みと確保方策」については、法定で記載が義務付けられているものであることから、現時点で記載内容を変更することは想定しておりません。

No.	頁	概要	町の考え方
15	P99	○高い目標値は望ましいが、目標が大きすぎると達成が難しくなることがあるため、その妥当性を確認する必要がある ○現状と目標値に大きな開きがある場合、達成するための根拠があるのか。	目標値は、こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」の実現に向けた子ども・若者や子育て当事者の視点に立った数値目標であり、町の現状値と大きな開きがある指標もありますが、国が設定した目標値に近づけるよう各施策を推進していきます。
16		計画の対象年齢も入れた方がわかりやすいのではないかな。	計画の対象年齢について記載します。
17		町の子ども計画は、中学生くらいまでを対象としているように感じる。 青梅市の計画では、青年期対象（高校生以上）とする部分があることから、瑞穂町の計画にも同様の配慮が必要。	計画の対象年齢について記載します。
18		青梅市の計画では、「不登校児童・生徒数の推移」のグラフが掲載されているが、今後のこども計画を考える上で、この点については触れておいた方が良いのでは。	不登校児童・生徒数の出現率等は注視しますが、本計画への数値の掲載は考えていません。
19		町でも留学のための補助金（瑞穂町海外留学奨学資金等支給制度）があるため、そのような夢を持てる内容もふんだんに盛り込むべき。（この町に住んでいるとこんなことができるんだと感じさせるようなもの）	P49の②子ども・若者の活動・社会参画の確保のNo.2として「海外留学奨学資金等支給制度の利用促進」を追加します。
20		青梅市の計画では、AI分析を用いて自由意見を整理し、見やすくする試みが行われているため、瑞穂町のアンケート集計などにも、この方法を参考にすべきだ。	今後、町全体として、各種計画を策定する際のAI活用について、どのように対応していくのかという方向性が示されれば、AI分析等も活用していきたいと考えています。